タイヤ保管業務を委託

東京・多摩地域　ダイワコーポと提携

タカラ倉庫運輸サービス（渡辺慎也社長、神奈川県海老名市）はダイワコーポレーション（曽根和光社長、東京都品川区）と提携し、4月から東京都多摩地域での乗用車用ホイール付き預かりタイヤの保管・配送・回収業務を委託した。同地域向け業務はこれまで、タカラ倉庫の厚木センター（厚木市）で行ってきたが、同地域での需要増加に伴いウインローダー（髙嶋民仁社長、東京都東村山市）の昭島市の倉庫に移管する。

（吉田英行）

タカラ倉庫

急なオーダーに対応

タカラ倉庫が展開するタイヤ保管・配送サービスは、自動車ディーラーやタイヤショップがユーザーから預かったオフシーズンタイヤを専用倉庫で保管・管理し、オーダーがあった際に配送・回収するもの。全国の物流会社と提携して30以上の都道府県をカバーしており、他社との提携は今回で6社目となる。

タカラ倉庫とダイワコーポは2月28日付で業務契約を締結。これまで、多摩地区のタイヤは、タカラ倉庫の厚木センターで保管し、ディーラーなどからのオーダーに応じて厚木から多摩に自社トラックで配送していた。提携により、多摩地区のタイヤはウインローダーが持つ昭島センターで保管し、配送・回収も同社のトラックで行う。

需要地の近くに保管拠点を設けることで、急なオーダーにも対応しやすくなり、顧客満足度（CS）の更なる向上につなげる。また、厚木―多摩の輸送を減らすことで効率化、二酸化炭素（CO_2）削減、ドライバーの労働時間短縮なども図る。

預かりタイヤの保管需要が増加（タカラ倉庫の厚木センター）

多摩地域のディーラーやタイヤショップから預かるオフシーズンタイヤの本数は1万7千セット（6万8千本）。このうち、今回はまず3千セット（1万2千本）を委託し、残りの1万4千セット（5万6千本）についても、保管拠点が見付かり次第委託する計画。

ダイワコーポとの提携は、メインバンクの紹介がきっかけだ。多摩地区での需要の増加に伴い、タカラ倉庫では数年前から新たな提携先を探しており、銀行にも相談していたことから今回の提携が実現した。

円滑な移管のため、3月に厚木センターで保管・運搬方法の研修を実施し、委託先にノウハウを提供。また、タカラ倉庫が開発したWMS（倉庫管理システム）についても無償提供し、ディーラーなどからのオーダーをシステム経由で直接受けられる仕組みも順次移管する。

タカラ倉庫は、全国各地で他社との提携を拡大。20年3月には大阪府内向け業務を尼崎南運輸（中島孝博社長、兵庫県尼崎市）、同年12月には東京都東部エリア向けを天馬サービス（滝本忠勝社長、千葉市美浜区）グループに、それぞれ委託している。

渡辺社長は「コンプライアンス（法令順守）上、委託先は営業倉庫に限っている。高品質サービスを提供可能な物流会社との連携で、需要の多い預かりタイヤサービスを更に広げ、タイヤ物流の一層の効率化にも貢献したい」と話している。